

透析患者における硝酸イソソルビドの血中濃度 - 透析膜および血液浄化療法との関連 -

第 43 回 日本透析医学会学術集会

長浜文子¹ / 丸山禎之・和田 茂・東 明子・新木京子・林 直子² / 佐々木敏作³ (大阪掖済会病院
薬剤部¹ / 透析室² / 内科³)

【目的】虚血心疾患を有する患者が透析中の狭心症を抑制することは安定した透析を行う上で重要であり、また狭心発作予防には有効血中濃度の維持が必要である。そこで今回、ISDN の透析性を膜素材と浄化療法を変えて検討した。

【方法】ISDN20mg を 1 日服用している慢性維持透析患者 3 名を対象とした。膜素材は再生セルロース膜・ポリスルホン膜を使用し、HD および HDF を施行して ISDN とその活性代謝物の血中濃度を測定した。

【結果・結論】ISDN および代謝物とも HDF 時にクリアランスが上昇した。2 症例で ISDN および代謝物とも健常人より高い血中濃度を示したが、各 study と薬物血中濃度の関連はなかった。

今回の検討の結果、ISDN および代謝物のクリアランスが膜素材や HDF により変化することが認められた。